平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572110104		
法人名	社会福祉法人大館圏域ふくし会		
事業所名	グループホームたしろ		
所在地	大館市岩瀬字上岩瀬上野35番地		
自己評価作成日	平成22年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	平成22年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①月１回の広報誌「かわら版」の発行・家族交流会・ボランティアによる畑作り・保育園児との交流を通し、地域・家族に開かれた事業所を目指している。
②「運営推進会議」の設置により、家族・地域・行政が一体となり、事業所の健全な運営を図っている。
③防災計画を基に、バックアップ施設「特別養護老人ホーム長慶荘」及び地域防災協力員との連携を図り、夜間防災体制の確保・消防避難訓練等を実施し、利用者の安全を確保している。
④認知症に係わる研修会への参加及び資格取得を積極的に実施し、職員の向上を目指している。また、地域住民に「家族介護者教室」の講師として、職員の専門性を生かして認知症の予防や対応について講話などを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所の研修会や通院、外出時には、事業所の人員不足を補うためにバックアップ施設である長慶荘より応援があり、安心して取り組める環境にある。
事業所の目の前には保育園があり、月１回の定期的な交流では芋の苗植えから収穫作業を一緒に取り組んだり、折り紙や歌と踊りの発表がある。さらに近隣を散策する際には賑やかな園児の声が聞こえたり、あいさつ等を交わす場面等が見られ、利用者にとって良い刺激となっている。
事業所の管理者を含め法人全体が、運営推進会議や外部評価等で提案された意見や要望等を取り入れ、積極的に事業へ活かそうとする姿勢を持っていることが確認できた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざしたグループホームとして、地域の方に協力して頂き、畑を作ったり、避難訓練時に来て頂いたり、たんぽ会を開き交流している。また、保育園児との交流や朗読や大正琴サークルと交流を図り、家庭的なホームを築いている。	事業所の方針は、職員会議や申し送りの際に管理者から職員へ伝えられている。また、毎年の法人合同研修会で法人全体の年度目標が掲げられ、周知の上業務に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に協力して頂き、避難訓練をしたり、畑づくりをしたり、隣の保育園と交流したり、毎月かわら版を地域の方に届け、地域の一員として交流できるよう努めている。	避難訓練実施の際は、地域住民からの参加もある。その際に利用者の顔を覚えてもらうため、きりたんぽ鍋を囲み交流している。また、読み聞かせのボランティアも来訪している。世代が近いということもあり、昔話に花が咲くことから利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	包括支援センター主催の家族介護者教室で、グループホームを紹介したり、認知症の方の介護について話をして、理解、協力を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価後は、評価結果を報告したり、また、委員から出された意見（入居者がくつろげるようなソファーを購入）を取り入れたりし、ｻｰﾋﾞｽの向上に活かしている。	会議の中で、避難訓練に関して出された意見のうち、避難路についての検討やスロープの拡幅等に取り組む準備をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月かわら版を届けたり、待機者数を報告したり連絡を取り合っている。また、運営推進会議のメンバーに市職員がなっており、情報を伝達している。	大館市内にあるグループホームが集まり、グループワークを実施する取り組みが、市の主導でできつつある。また、事業所の待機者等の状況についても連絡体制は密になっており、相談もしやすくなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを取り組んでいる。万が一（経管栄養中、ﾁｭｰﾌﾞ抜去の危険ある時等）必要な場合は同意書を頂き、行うようにしている。	法人として虐待防止の観点から、身体拘束をしないケアの仕組みがある。また、定期的な話し合いがもたれ意見交換している。	虐待及び身体拘束防止に関するグループホーム内でのより具体的な実践として、職員会議での注意喚起や研修の実施等、さらに活発に取り組んでいくことも期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全体で、虐待防止に務めたｹｱに取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修に参加し、参加した職員は研修報告として、他の職員に伝え、職員皆で理解出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時、又は改正時は入居者、家族に説明し、理解、納得を図り、サインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人の希望や面会時に家族と話をして、要望等を聞いたり、運営推進会議で家族からの意見を聞いて、取り入れるようにしている。	利用開始時には事業所の方針や日課を含めて説明し、お互いの信頼関係を築くよう努めている。また、面会時や事業所だより「かわら版」等で利用者の様子をきめ細かく伝えることで、要望が出しやすいような体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	バックアップ施設長慶荘の施設長、補佐が毎月の職員会議に参加して下さり、意見を聞いてくれている。また、毎朝の申し送り時に職員の意見を聞いて、ホーム皆で一緒になり取り組んでいる。	利用者の様子や業務の中で気付いたこと等を申し送りノートに記載し、職員や管理者で情報を共有するように努めている。さらに、具体的になった意見は職員会議で話し合われ、業務に活かされている。	申し送りノートには、利用者の変化や業務について等、様々なことが記載されており充実している。今後は、内容によって分類して記載するなど、さらに見やすく、活用しやすくなるような工夫も期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職務遂行能力考課の自己評価を行い、その後施設長と面談し、思いを述べる機会があり、働きやすい環境になっている。また、資格取得に向けた研修等、積極的に参加させて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加させて頂き、研修後は職員に報告し、皆で向上できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームでの合同会議を定期的に行い、また、大館地区でのグループホーム会議に参加して、サービスの質を向上できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期にはできるだけ本人に寄り添い、また、家族には泊まって頂いたりし、本人、家族が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族からの要望はできるだけ聞いて、安心してホームで生活できるよう努めながら、また、ホームでの生活様子を伝えて、安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を意識して、畑作りや漬け物、調理方法等聞きながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にして、本人の思いはできるだけ家族に電話して話してもらっている。また、家族からの情報を聞いて、ホームに入っても家庭とあまり変わりなく生活できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ行ったり、馴染みのある場所へ外出したりして、安心できるように努めている。	ホームを利用したばかりの時は、要望があれば利用者の不安が軽減されるまで家族が宿泊することができる。また、ホームを利用する前に住んでいた地域のお祭りや行事、お気に入りの場所へ職員の付き添いで外出することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、いい関係が築けるよう、テーブル席を工夫したり、興味のあること(家事、レクレーション等)を一緒に行い、安心して過ごす事ができるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移られた方は、特養に行った時に話を聞いたり、また、家族から相談があった時は聞いて、ケアマネージャーに繋げたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを大切に、墓参りや山菜採り等希望された時は、家族に了解をとり、行くようにしている。	職員は日々の会話や仕草等から利用者それぞれの要望等を把握するよう努めている。また、直接伝えられた要望にはできるだけ添うようにし、外出支援や環境整備に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時は今までの生活様式、趣味等を聞いて、入所しても継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理せず、入居者の意向を聞きながら、一人ひとりの思いを大切に、安心して生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞いて、またサービス担当者会議で職員間で話し合い、介護計画を作成している。	利用者に特段の変化が見受けられなければ、6か月後の見直しを行っている。利用者毎の担当職員が状態を把握し、それを元にサービス計画を作成している。その計画はさらにサービス担当者会議で検討した後、家族との間で要望等を踏まえながら再度話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に記入し、また申し送りで問題が発生したら話し合い、申し送りノートに記入し、職員皆に伝わるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居するまでにかかっていた病院に継続して通院している。また、本人、家族に相談し、病院、歯科医を選択している。	利用者がホームを利用する前からのかかりつけ医へ継続して通院している。症状や家族の要望によっては、病院を変えながら引き続き支援している。通院の際は職員が付き添い、変化があれば、家族等へ連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者(看護職)に相談したり、また、長慶荘の看護職員に相談したりし、適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療機関、家族と連絡を取り合い、退院後も安心してホームで生活できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態が変化した時や、通院後薬が変更した時等は家族にその都度報告して、相談している。	家族等に対し、利用を始める前にホームとしてできることを伝えている。また、本人の状態変化があれば、その都度家族等と話し合いを持ち、相談に乗るなどの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応等、マニュアルに添って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員皆が災害時すぐ動けるように訓練を重ねている。また、避難訓練時は地域の方にも参加して頂き、行っている。	非常災害時に作動する自動通報装置は、ホーム職員だけでなく、地域住民や自衛消防団の自宅にも通報されるシステムとなっている。避難訓練では、地域住民が実際に車いすを押すなど、実践的に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、損ねない言葉掛けをするように努めている。	職員は、利用者の理解をすすめるために生活歴やケース記録を読み込むこととしている。その上で、声掛けやタイミングを計りながら利用者と接している。	慣れや気の緩み等から配慮のない声掛けや支援にならぬように、という管理者の思いもあることから、今後も利用者への対応について、日常的に職員へ周知していくことも期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後の着替え等、どれに着替えるか、自分できめるよう選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいと思っているが、寝ている事等多くなるので、こちらからレクや体操等何をしたいか選んで頂き、行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人又は家族の希望の美容院や行ったり、本人に着る服を選んで頂たり、本人希望を重視している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑を作り、一緒に収穫して調理したり、好みや旬の野菜等を使い、楽しく食事ができるように心掛けている。	事業所の敷地内にある菜園から収穫された季節毎の食材が使われ、食卓を彩っている。その下ごしらえや調理は利用者と職員が共に行い、食事までの過程も楽しみながらできるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量がわかるように摂取表に記入し、摂取量が少ない時は間食を取って頂いたり、水分摂取が少ない人はトロメリンを使用し、取って頂いたり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアはできていない。就寝前には全員できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けしたり、誘導して自立に向けた支援をしている。	職員は定時の排泄の促しと共に、確認表を使いながら利用者の状況を把握することで、適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎朝ヨーグルト、牛乳を摂って頂いたり、運動や腹部マッサージしたり、豆乳を摂って頂いたり、また、医師と連携して下剤の服用をしている人もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	以前はいつでもと就寝前に入浴していたこともあったが、入居者に目が届かず、事故が起きた。現在は入浴日を決めている。	基本的な入浴日を火・木・土としているが、利用者からの要望があれば都度対応している。あせもなど、皮膚のトラブルがあった場合には、随時シャワー浴等でも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせ、自室やホール、ソファーで休憩したり、天気の良い日は寝具を干したりして、気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容書類は利用者ごと保管し、また、薬変更になった時は申し送りノートに記入し、症状の変化等には十分気をつけ、確認するように努めて、医師と繋げるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味等聞いたり、興味のある物を捜し、できることはして頂き、また楽しく生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	買い物や余暇活動、花見や紅葉狩り等季節にあわせた外出は声掛けし行っている。	職員と共に食材の買い出しへ行ったり、近隣への散策を日常的に実施している。また、季節毎の地域の祭事への参加についても、利用者の希望に沿うように対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはその人に応じ、自分で購入して頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をしたり、手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂くようにホールや玄関を飾り付け、またホールからは花が見えるようにプランターを於いたりしている。	花壇や菜園が見えるウッドデッキの近くにイスとテーブルを配したり、廊下の一角には畳敷きの腰掛が設置するなど、利用者が寛げるように工夫している。また、玄関まわりやホールには季節を演出する飾り付けがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールのソファーや廊下の椅子や畳等を自由に利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居た時の本人の部屋で使い慣れた物をそのまま持ってきて頂き、入居しても安心して過ごせるように、環境をあまり変えないようにしている。	必要に応じて家族が宿泊できるだけの広さが確保されている。ベッドには写真たてが飾られていたり、使い慣れた物が配置されていることで、本人が安心して暮らせるよう心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掴まり棒を設置し、自力で立てるようにしたり、物干し台を準備し、自分の洗濯物は自室に自分で干すようにして自立した生活ができるように支援している。		